

個別学習と小集団活動で自信を育む校内別室指導

不登校児童の状況

対象児童は、小学校4年生の時に転入してきた当初より学習の遅れが著しく見られた。友人関係は安定していたが、学習への不安から登校を渋るようになり、小学校5年生の時は完全な不登校状態となった。校内別室支援開始後の小学校6年生の4月からは週2・3日のペースで、2学期からは毎日校内別室に登校できるようになった。

具体的な取組

○校内別室の活用と個別学習の時間の設定

算数は当該児童の理解度に合わせて小学校2年生程度の学習から少しずつ進めた。漢字は一人1台端末を活用して、書くことより読むことに重点を置くようにした。個別の学習に取り組んだことで、学習に少し自信が付き、教室で学習できる日が増えた。

○小集団の活動の時間の設定

校内別室を利用する低学年の児童と一緒に読み聞かせを聞き、感想を言い合ったり、好きなことについて話し合ったりして、他の児童との関わりをもつ活動や取組を意図的に設定した。

異なる学年ではあるが、本音で話せる友達ができた。

○安心できる大人との関わり

保護者の感情の浮き沈みが激しく、当該児童が保護者に相談しづらい状況があったので、校内別室支援員に安心して気持ちを話せる関係づくりをした。

校内別室でコミュニケーション能力を磨き、担任にも自分の気持ちを伝えられるようになった。



○学級との関りの維持

登校した際には、支援員と教室に行き、一日の過ごし方を担任に伝えた。

当該児童が早退したいときは、担任に相談し、保護者に連絡して送迎の協力を得るようにした。

当該児童の自信がある図工等の教科は学級の中で活動することができた。



成果

不登校になった原因が学習の遅れであることが、校内別室に来たことで明確になり、個別学習の時間を設定したことで、少しずつ自信がもて、学級にも行けるようになった。信頼できる大人との出会いでコミュニケーション能力も身に付いた。

課題

学習内容の習熟に課題が見られ、中学校進学へのイメージをもたせることができていない。保護者とも進路情報を共有していく。